



新車のトラクターに乗って記念撮影



J A全農あきた農機製品倉庫で行われた寄贈式



報道陣のインタビューに堂々と答える野呂君

能代科学技術高校に共同購入トラクター寄贈

12月7日に能代科学技術高校など農業分野の学科やコースがある県内3高校にJA共済連秋田から農業実習用トラクター1台（共同購入トラクター）を寄贈しました。将来の農業を担う人材の育成を目的としたJA共済連秋田の地域貢献活動の一環で行われた寄贈式典には、県教育庁の渡辺勉高校教育課長のほかJAや各校教諭や代表生徒らが出席。目録を受け取った教育庁の渡辺課長は「生徒の就業意欲を喚起させるためにも、有効に活用させていただきます」と謝辞を述べました。

能代科学技術高校の野呂明澄君（3年）は「現在の実習用トラクターは老朽化が進んでいるので、新車のトラクターで実習授業をやってみよう」と、連転席に座ってレバーの位置の確認やハンドルを握るなどして喜んで表情を見せてくれました。



上位5点は「サザ」プレミアム「ファイブ」として有利販売



「美味しい“あきたこまち”コンテスト」 白神管内2点ノミネート！

J Aグループあきたは12月9日「秋田米フォーラム2021」を秋田市で開催しました。県やJA、生産者など約150人が参加。このフォーラムは、県産米の更なる高品質・良食味米生産への意識醸成を目的に毎年開催されているものです。

フォーラムの中では、令和3年産米「美味しい。あきたこまち」コンテストの表彰式が行われ、全県から選ばれた83点の中から12点に絞り込まれた選考会において、当組合から（農）しのめはら（代表理事 森道夫）と萩原勝則さん（米代1区）がノミネートしました。結果は堂々の優良賞を受賞されました。

受賞した萩原さんは「これまで水管理と土作りにはこだわりを持って取り組んできた。更なる高品質米を栽培できるようにこれからも継続して取り組んでいきたい。」、（農）しのめはらの米屋正志さんは「育苗期から刈取り期まで、常に徹底した作物と会話をしてきた結果が受賞へとつながった。来年産も会話をしながら更なる高みを目指したい。」と両者ともに来年産に向けた抱負を力強く語ってくれました。

コンテストで優秀な成績を収めた生産者の栽培方法の事例は県域で共有されることとなります。このほか、「秋田県土壌の変遷と食味向上対策」と題した基調講演なども行われました。

全県JA青年部盟友が集い叡智と行動力を結集！

秋田市内でJA青年大会が12月2日に開催され、当青年部（山谷清貴部長）から6人が出席しました。県JA青年部協議会佐藤委員長は「若手農業者が集って、対話・協力することが強い農業をつくり「持続可能な農業の実現」の一歩となる」とあいさつ。

JA青年部主張発表大会では二ツ井支部の山谷啓太さんが登壇し、「仲間をつくる」と題して就農したばかりで不安であった時に心の支えとなったのが青年部員との存在や地元の間柄が密に携わっていく自分にとり、仲間がかけがえのない宝であり、青年部員とのつながりを大切にしようとする方々とも積極的に交流を図って農業の立場から地域振興の役割を担っていかたい。」と力強く発表してくれました。



力強く主張する山谷さん

食べてくれた方に感謝！女性部員に感謝！！

管内で様々な催しが開かれ、大盛況のうちに幕を閉じた。第144回秋田県種苗交換会。身も心も温まる愛情たっぷりの「さりとたんぼ」と「味噌付けきりたんぼ」を提供した女性部員による報告会が12月3日に開催されました。

佐々木博子部長は「各支部の女性部員から期間中ご尽力頂いた本当に感謝。お客様の九割以上の方がスープまで飲み干してくれたことが本当に嬉しかった。それだけ満足させて味付けに一週間仕立てた女性部員個々の料理の腕前に本当に感謝した。これからも家庭の味、地域の味を守りつつ、活動を通じて食文化を継承していきたい。」とあいさつ。

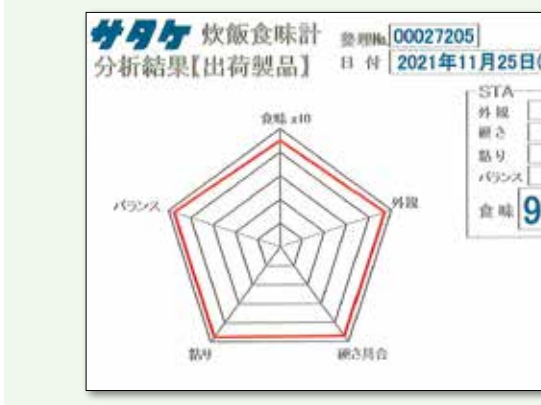
参加した女性部員からも「皆で協力しながら楽しく一週間で過ごすことが出来た。」と満足した表情を見せてくれました。



「感謝」というフレーズを何度も口に出す女性部長



「優良賞」受賞の農しのめはら 森代表理事（右）と米屋さん（左）



「優良賞」を受賞した萩原さん

市場評価を高める販売力の強化と関連するコストの削減を通じて
 農業者の所得増大を確実に実現します。

『収入の増加 - コストの減少 ⇒ 所得の増大』

県1JAが進むステージ

経営理念と基本姿勢を永続的に追及するには、合併を目的ではなく「はじめの一步」として捉え、5年後、10年後の姿を想定した段階的な目標設定を目指します。

合併	ステージⅠ	ステージⅡ	ステージⅢ
	激変緩和対応期間	合併効果の実現	更に目指すべき姿
組合員	・合併しても変わらない安心感 「合併しても身近で利用しやすい!」	・合併のメリットを実感 「秋田産が盛り上がりつつ! 資材は安くなった!」	・新JAへの更なる期待 「JAへの期待がますます深まっている!」
事業	・事業ボリュームの維持 ・混乱を抑える人員配置、分掌 ・合併時コストの適正支出	・部門別場所別損益の改善 ・事業の見直し ・指揮命令系統の最適化 ・人員配置の見直し	・部門別場所別損益の確保 ・指揮命令系統の確立 ・新たな事業への取り組み
体制	・地区本部制の浸透 ・役員等組織体制の浸透 ・弊害を最小限に抑える体制づくり	・地区本部数、体制の見直し ・役員定数の削減 ・地区本部から本店への業務集約	・事業部制等への転換 ・新たな体制への対応

県1JA組成にかかる想定される懸念事項

- 県1JA組成において、組織の大規模化等に伴いマイナス材料が生じる可能性も想定されます。「県1JA」構想では、これらの懸念事項も考慮したうえで対応を策定して参ります。
- ①県全体をエリアとするJAとなるため、地域特性が薄れる事への懸念
 - ②地域の実情に応じた意志反映や組合員ニーズの把握低下への懸念
 - ③支店・購買店舗・営農関係施設・職員の再配置や機能集約による利便性低下への懸念
 - ④大規模化することで、本店・地区本部間での意思疎通の不十分さ、責任のあいまいさ等が生じ、JA運営に支障が生ずる懸念
 - ⑤JA間での異なる項目(会計処理基準等)や事務処理の統一により、一時的に多額の費用が発生する懸念

※上記、座談会資料(県1JA基本構想(素案)令和3年8月17日版)より抜粋



座談会資料は左記QRコードからダウンロード頂くか、
 最寄りの当組合各事業所へお問い合わせ下さい。



この度の集落座談会にご出席くださいました組合員の皆さまから頂戴した貴重なご意見・ご要望とその回答内容については、重複する内容等集約したのち、広報「しらかみ」2月号2022. vol. 279(令和4年2月15日発行)にておつなぎいたします。

集落座談会で頂戴したご意見・ご要望(抜粋)

- 「よりちかくに」をモットーにしているが、合併により支店や購買店舗が統廃合となり不便になるのではないかと?
- 将来的には合併は必要と思うが、組合員に不便がないよう取り組んでもらいたい。

合併に関する事項のほか、事業運営に関するご意見やご要望がございましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

集落座談会開催



『ひとつになれば さらにできること』を模索



12月3日からの5日間、管内の37集落を会場に集落座談会を開催しました。コロナ禍の影響等により約2年ぶりの開催となりましたが、年末で慌ただしい中多数の組合員の皆さまよりご参加いただきました。

今回の集落座談会では令和6年4月を目標にした県内JAの合併(県1JA)の進捗状況についてJAグループ秋田組織再編協議会が作成した「県1JA基本構想(素案)」「県域JA農業振興計画(素案)」「令和3年8月17日版)を基に現状を報告。

佐藤組合長は「今後も引き続き合併に関する話し合いの場には立つことを検討しているが、決して

「合併ありき」での参加ではなく、山積する検討すべき課題を一つ一つクリアしながらも、今、農家組合員に確実にメリット還元できる方策が一つでもあれば先行して取り組んでいきたいと思う。今後、協議された事項は組合員の皆さまにお繋ぎしながら、合併についての最終判断は組合員の皆さまに仰ぐこととなりますのでよろしくお願ひします。」とあいさつ。

参加者からは、合併に対する期待感や不安に思う事、世界的な原油高騰による営農資材等の高騰問題、今話題の新品種「サキホコレ」の状況など、貴重なご意見・ご要望を述べて頂きました。

